

令和6年度入学 一般選抜前期日程 外国語(英語) 講評

第1問

【出題のねらい】

文の構造、文法、語彙を正しく理解した上で、全体の内容を的確に把握できるかを問う読解問題である。

【講評】

全体的に3割程度の正解率であった。特に、記述問題の正答率が低かった。本文の内容を的確に理解できていない受験者が数多くみられた。

問1

語彙、接続詞、前置詞、動詞、関係詞、分詞について問う問題であり、正答率が高かったが、④の誤答が顕著であった。正答を導くためには、語彙の理解にとどまらず、文章内容を正確に理解していることが必要であった。文脈から、契約において二者が互いに恩恵を受けることの理解が必要であった。全体として、語彙及び文法の理解を確実にしておくことが望ましい。

問2

単語の意味を、別の単語と勘違いしている解答、適切な意味での解釈をしていない解答が数多くみられた。特に、a plant を、「工場」ではなく「植物」と解釈したり、the waste を名詞ではなく、動詞の「浪費する」として解釈したりする解答が散見された。ジュースを作る際に出たゴミを牛の餌にする工場は、多くの化石燃料を使用することから、環境に配慮した会社のイメージを崩さないために、そうはしなかったという内容を適切に捉える必要があった。

問3

正答率が非常に低かった。deal の意味を理解していないために、「取引」の具体的な内容を読み込むことができていない解答が多かった。英文を読む際は、問題の該当箇所のみならず、前後の文を読み、全体の文脈を読み取る練習が必要である。

問4

real estate の意味やセミコロンの役目が分かるかが鍵となっていた。specialty には専門(分野)という意味があるが、特別性、特性、特化、特別さなどという語を当てはめた解答が散見された。また、ways が複数になっているため、異なった「色々な」方法を思いつくとい

った意味を醸し出していることも読み取ることが望ましい。ecosystemをreal estateとの関係から解釈し、主語を「土地」と表現すると分かりやすい模範解答となった。

第2問

【出題のねらい】

本文を読み、その大意と論理の展開を理解できるかを問う問題である。

【講評】

全体的に6割程度の正答率であった。

第3問

【出題のねらい】

基本的な英文法及び語彙の用法を理解し、英語で表現する際に応用できるかを問う問題である。

【講評】

全体的に5割程度の正答率であった。

問1

最も正答率が高かったのは①であった。③及び④に関しては、多くの受験者が、menuの意味を理解してないため“did you decide your menu?”といった解答が多くみられた。また、“do you want to something”といった文法的な誤答が共通してみられた。

問2

borrow、lend、lent、rent、rendの使い方の間違いが、①では散見された。②に関しては、“I’d love to”を「いいですね!」といった意味であることがわからない受験者が多くみられた。③は最も誤答が多かった。「彼女はどのような感じの子ですか?」をうまく英語で表現できない受験者が散見された。会話の流れを読み取り、的確な英語を解答する必要がある。

第4問

【出題のねらい】

場面に応じた日常会話表現の理解を問う問題である。特に、多様な場面において、広範な話題に適した表現で対応できるかどうかを試す問題である。

【講評】

全体的に 5 割程度の正答率であった。会話文を読み、設定された状況を正しく想像することができれば、解答を導き出すことができる。

第 5 問**【出題のねらい】**

提示されている条件に従い、題目に関する自身の考えを、自身の立場を明らかにした上で述べることができるかどうかを試す問題である。

【講評】

全体的に、5 割程度の正答率であった。この問題では、環境保護に役立つ具体的な行動を少なくとも 5 文記述するよう求められていた。英文の内容、構造、そして文法について評価した。高得点の受験者は、水の節約、プラスチックの使用を避けること、材料の再利用などについて述べていた。英文の構造的な問題点としては、短い段落でトピックセンテンスを 2～3 回繰り返したり、言い換えたりしたことであった。文法的な問題点としては、基本的な文の構造の違いから、recycle、trash、plastic といった単語の基本的なスペルミスまで様々であった。また、ごみを指す場合に dust を使用する受験者も散見された。